

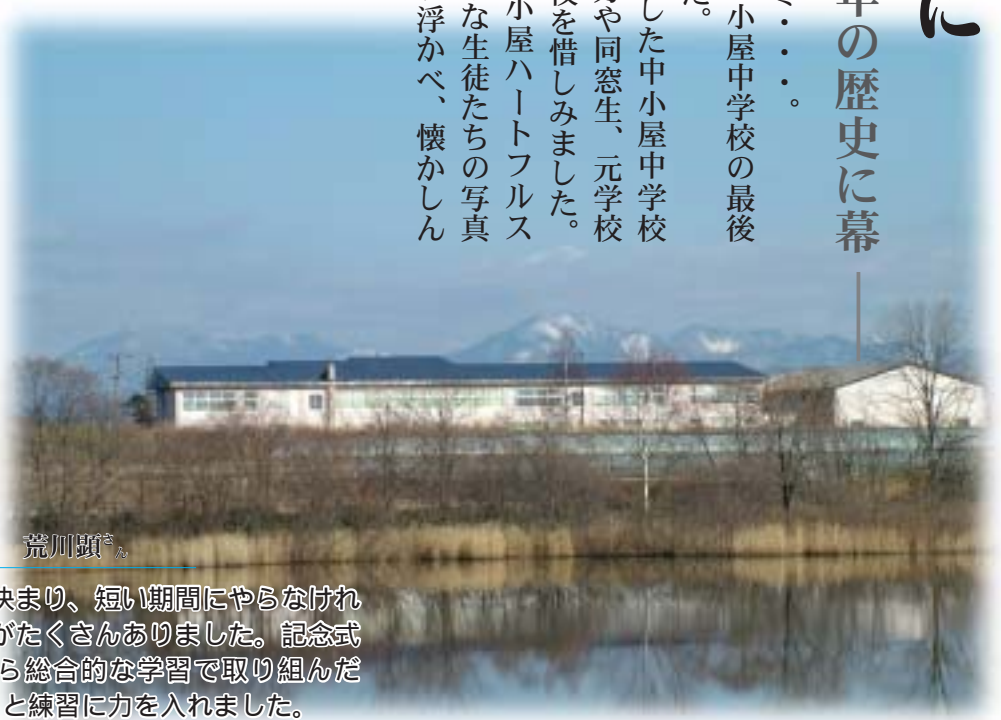


# 思い出は永遠に

## —— 中小屋中学校が57年の歴史に幕

例年がない大雪に見舞われた今年の冬……。3月13日、まだ春遠く雪に覆われた中小屋中学校の最後の卒業式が開かれ、2人が卒業しました。

57年間に807人の卒業生を送り出した中小屋中学校で行われた閉校記念式典には、地域の方や同窓生、元学校長や教諭など約200人が集まり、閉校を惜しみました。廊下には、荒川校長が撮り貯め「中小屋ハートフルストーリー」と題した地域の風景や楽しい生徒たちの写真が飾られ、参列者は多くの思い出を思い浮かべ、懐かしんでいました。





**最後の卒業生**



この学校で学んだことを誇りにこれからも歩んでいきたい



中小屋中学校長 荒川顕けんさん

昨秋、閉校が決まり、短い期間にやらなければならないことがたくさんありました。記念式典には、昨年から総合的な学習で取り組んだ「琴」の演奏を発表しようと練習に力を入れました。

生徒7人の今日の演奏は、とても立派でした。

子供たちは、音楽を通して人とかがわることの大切さや、少人数でもやればできる力を身に付けてくれたと思います。新たな学校へ羽ばたく生徒たちへ“頑張れ”とエールを送ります。



古谷陽一やういちさん

私が通っていた頃は、まだ小・中併置校でしたが、27人位生徒がいました。野球部でみんなと練習に励み、町内大会に出たことが思い出されます。

だんだん人数が減って、部活などいろんな活動ができなくなって閉校になってしまうので残念ですが、仕方ありません。

この学校が、地域みんなの為になる施設として、利用できればと思っています。



堂前かなえかなえさん

平成13年度に中学校を卒業したとき生徒数は10人でした。生徒会長を務め、学校祭などみんなをまとめて自分たちの手で頑張ったことを思い出します。

全学年が仲良く、充実した中学校生活でした。昨年、閉校になると聞いて寂しい気持ちでいっぱいでした。

この学校が地域で使えるようになったら、みんなと遊びに来たいと思います。



## 町長の日記

17年3月19日(土)

今日は太美駅のプラットホームが改修されてとても乗降しやすくなったので、西当別連絡協議会が主催した“JRに感謝する”と云う珍しい催しがあった。

JRから今や道内の経済界の実力者である坂本会長さん等幹部の方が10人ほど来られて、西当別コミセンで地域の人も300人余り参加されて大変盛大だった。

札沼線は昭和9年に全面開通したが、昔の鹿野恵造村長の回顧録を読むと明治44年から鉄道誘致運動が盛んになったと書かれているが、当時、空知の石炭を小樽港へ運ぶ為と云う目的を札幌へつなぐ為に随分苦労もあったようだ。

私はお礼の挨拶で「当別 - 札幌間を20分くらいで走るようにしてほしい」と話しました。実は札幌 - 当別間は札幌 - 千歳間や札幌 - 岩見沢間よりはるかに近いのにJRでは所用時間が逆に長い為に札幌市民に当別は遠いところと錯覚されているところがある。

今は道内で「学園都市線」が通勤通学列車として一番利用されている訳だし、せめて一日に何本か快速列車を走らせていただきたいと思う。

今の技術では当別 - 札幌間20分は決して夢ではないと思う。

そうなれば車よりJRの方が利用されるようになり札幌市内でも地下鉄の利用が増え交通渋滞が緩和され、札幌周辺の町として大都市に対する道義にかなない温暖化問題の解決にもつながる。

鹿野村長も天国できれいな空気を吸えて喜ばれると思う。

テーブルを廻った時、ほとんどの人が「快速があったらいいね」と期待していた。

お祝に頂いたらしい“ロイズのシャンパン”が当別産の“いも団子汁”や“当別家族”の料理をひき立ててくれて楽しいパーティだった。

当別町長衆亭俊孝

## 行財政システム再構築プラン



### 住民説明会を開催しました

2月下旬に3会場で行った住民説明会を開催し、268人の町民に参加いただきました。説明会では、パブリックコメントに寄せられた意見に対する町の考え方や再構築プラン(原案)の内容などの説明をして、質問や意見を伺いました。今月は、説明会でいただいた意見の一部と町の考え方をお知らせします。

#### 情報共有

Q 行政改革を成功させるためには、行政と住民が情報を共有する必要がありますが、町のホームページに、財政の詳しい情報を掲載すべき。

A 財政状況については、予算、決算の情報や町の財政事情を広報誌でお知らせしてきました。今後も、現在の厳しい財政状況を皆さんにわかりやすく理解していただけるようホームページや広報誌などで積極的に情報を掲載することを検討中です。

#### 除排雪のあり方

Q 除排雪については、ある程度、町民の負担も必要だと思う。

A 町道や身近な生活道路については、住民と行政の役割分担を明確に

し、協働して維持管理できるように成17年度に検討します。

#### 医療体制

Q 移住促進を考えると、病気になるかどうか心配がある。

A 町は今までも、JRの時間短縮や、老朽駅舎、プラットホーム整備などの要望活動を続けてきましたが、地域の要望の一つであった、石狩太美駅のプラットホーム段差解消と、上屋の整備が昨年12月に実現しました。

A 万が一、病院の休診時間に体調が悪くなった時などのために、医療機関の協力をいただき、夜間や土日・祝祭日には、内科系の救急当番医制度があります。その日の当番医は、町の広報誌やホームページや新聞に掲載されています。また、広域的な救急医療体制については、町のホームページから情報を得ることが出来ますので、参考にしてください。

#### 人口増加対策

Q 人口を増やすためには、札幌までの通勤時間が短縮されるよう、JRに働きかける必要がある。

A 町は今までも、JRの時間短縮や、老朽駅舎、プラットホーム整備などの要望活動を続けてきましたが、地域の要望の一つであった、石狩太美駅のプラットホーム段差解消と、上屋の整備が昨年12月に実現しました。今後も、学園都市線の高速化・時間短縮を実現させるために、地域住民や沿線市町村と協力し、要望を続けていきます。

企画部企画課

(☎) 23 3042